



金沢脳神経外科病院だより ふれあい

2008年
春季号

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 浅ノ川
金沢脳神経外科病院 広報誌
第30号
発行所 メディア広報室
石川郡野々市町徳用町315
TEL 076-246-5600
FAX 076-246-3914
URL : <http://www.incl.ne.jp/knouge/>

病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様に、より高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

基本方針

1. 患者の皆様の権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

患者さまの権利

私達は患者の皆様の権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様の権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、充分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

病院長

高齢の患者さんを 救済するMD手術

病院長 佐藤 秀次



本院はくも膜下出血や脳出血、頭部外傷などの緊急手術のほか、毎週10～11人の脊椎手術を手がけています。脊椎手術の希望者は増加の一途といつても過言でなく、とりわけ70から80歳台の高齢者の増加が目立ちます。高齢者の脊椎手術で最も多いのが腰部脊柱管狭窄症と変形性腰椎症ですが、慢性長期化した椎間板ヘルニアも少なくありません。

高齢者の多くは様々な治療を受けてきたにも関わらず、痛みと不自由な生活から解放されないという苦悩を共有されています。さらに、共通しているのは高齢という理由だけで手術治療の対

象外とされたことです。今まで、私は高齢者のこのように扱いに強い疑問を感じてきました。なぜなら、年齢に関わらず、患者さん達を苦しめる下肢の痛みやしびれ、歩行障害などは脊椎の中を通る脊髄や神経根などの神経組織が骨や椎間板、靭帯などによって圧迫を受けることから生じ、その圧迫を取り除くことで症状の改善をはかることができるからです。この単純明快な治療則は年齢を問わず真です。ただ、高齢者は若年者よりも複雑な病態を呈し、一筋縄ではいかなくなっていることも事実です。しかし、神経学とMRIを駆使した診断と最小侵襲で的確に神経を除圧するMD手術とによって、高齢者でも十分に満足いく結果が得られることを私は多くの症例で証明してきました。脊椎疾患は高齢者の生活の質を大きく損なう代表的疾患であり、本院はこれからも

考えていく
高齢者の生活

ます。



登録医療機関紹介コーナー

上荒屋クリニック

診療科 内科・リウマチ科、整形外科、内視鏡内科
郵便番号 921-8065
住所 石川県金沢市上荒屋1-79
電話番号 076-249-6222
FAX番号 076-249-6822

「どんな事でもご相談いただける地域のかかりつけ医に」

◇広い内科系を中心にリウマチ外来も含め、お身体全体のご相談に応ずる診療をおこなっております。必要時の他科へのご紹介もお手間をかけず、迅速にご案内しております。

特色

◇心臓病・肝臓病・高脂血症・糖尿病・胃腸疾患・脳卒中後遺症・関節リュウマチなど広い慢性疾患に対し、その方にあったご指導をおこなっています。

◇広域に昼夜を対応する在宅支援診療所として往診を行っています。



◇健康上の事のみならず福祉・介護から医療費のお悩みまでケースワーカーを含め院所全体でご相談をお受けしております。

つじ川内科クリニック

診療科 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科
郵便番号 921-8846
住所 石川県石川郡野々市町位川251
電話番号 076-294-2221
FAX番号 076-294-1415

特色

◇内科一般診療以外に腹部超音波検査、大腸・胃ファイバースコピーやを行っています。

◇毎週火曜日、午後3時から循環器専門外来を行っております。

◇第4水曜日、神経内科専門外来を行っております。

◇癌の早期発見に努め、各種専門の医療機関と連携しています。

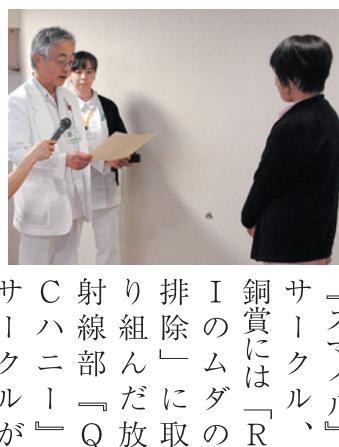
◇地域の皆様の健康管理をサポートいたします。

◇女性ばかりのスタッフです。お気軽にご相談ください。



その中でも、今回は衛生面とコストの改善を目的に「布オムツ完全廃止」というテーマに取り組んだ第4病棟の『グリンピース』サークルが金賞に選ばれました。その他の、銀賞には「病棟の悪臭退治」に取り組んだ第3病棟

選ばれました。QCサークル活動は、メンバーの能力向上・自己実現、明るく活力に満ちた生きがいのある職場づくり、患者様満足の向上及び地域社会への貢献を目指すものです。これからも職員ひとりひとりが品質、コスト、安全、モラル等に関心を持ち、QCサークル活動を通じて患者様に安心と満足の得られる、明るく活気のある病院づくりに努めて参りたいと思います。



第4回院内QCサークル活動発表大会を終えて

QCサークル推進委員会 委員長 熊橋 裕人

去る3月1日、第4回院内QCサークル活動発表大会が開催され、6つのサークルから業務改善の成果の発表がありました。

また、『グリンピース』サークルは、10月31日～11月1日に開催される『医療の改善活動』全国大会で今回の成果を発表します。

その他、銀賞には「病棟の悪臭退治」に取り組んだ第3病棟『スマイル』サークル、銅賞には「R Iのムダの排除」に取り組んだ放

射線部

Q C H A N G E サークルが

第8回石川県クリーカルバス研究会

クリーカルバス推進委員会
ワーキンググループ

2月17日に県地場産業振興センターにおいて「第8回石川県クリーカルバス研究会」が開かれました。佐藤病院長が座長を務めた「石川県における脳卒中連携バス」と題したシンポジウムで、梅森部長が「脳卒中地域連携バス」について講演を行いました。

講演では、脳卒中における地域連携バスの必要性、向かうべき方向性、そして現在抱えている問題点などを発表しました。更に、現在当院が進めている連携バスへの取り組みを紹介しました。

第3回日本海脳卒中医療連携セミナー

4月5日に金沢市内のホテルにて「第3回日本海脳卒中医療連携セミナー」が開かれました。「石川県脳卒中地域連携協議会 Kickoff Meeting」と題したパネルディスカッションに、河崎リハビリテーション部長と谷事務長がパネリストとして参加しました。

地域連携バス施行に向けて、参加者の方々それぞれの立場からの意見討議が活発に行われました。これからの脳卒中医療における、地域での取り組みに対する関心の高さが伺われました。



ようこそ！金沢脳神経外科病院へ

今年も新しい仲間が増えました

4月1日に、入職式が執り行われました。医師、リハビリテーション技士、看護師等総勢22名の新しい仲間を、迎える事ができました。



患者さんコーナー

井 村 宏 様

私が金沢脳神経外科病院に救急車で運ばれたのは、平成17年11月28日だったと思います。

その時は歩くことは勿論、両手の握力もほとんどなく、それは大変な状態でした。入院したときは、手術の予定が混んでいて12月末頃になるかもしれないとのことでした。しかし運よく12月12日に手術予定者の欠員ができ、頸椎と腰椎のヘルニア手術を同時にを行うことになりました。手術するのに最初は不安もありましたが、院長先生と鳥越先生の熱心な説明と適格な対応に安心して何の不安もなく手術を受ける決心をしました。手術は、全身麻酔でかなり長時間に及ぶもので大変だったと思います。手術後10日間ほどはベッドから降りることも身体を動かすことも痛くて辛かったです。車イスに乗れるようになり、リハビリへ行くことができる頃もまだ背中が痛くて歩くことなんて夢の中のことと思つていました。

それでも1月に入り車イスから歩行器になり、背中の痛みも少しづつこれ気分も落ち着いてきました。ただこの頃一番辛かったのは右手のリハビリでした。療法士の前田さんのお世話にな

ったのですが、約1ヶ月位毎日痛くて、辛くて大の男が半泣き状態でした。それでも前田さんの熱心なりハビリで手の痛みもとれ、ストレッチも楽しく色々なことを取り入れながら進んでいきました。また、歩くことも2月頃には療法士の東さんの指導で杖歩行の段階まで進んでいました。初めて杖を使って歩けるようになった時は本当にうれしく思つたこと、今でも憶えています。

歩道を歩いた時の感動は今もハッキリと頭に残っています。それから天気の良い日は2人にお願いをして時間調整をしてもらい、リハビリと外での歩行訓練、階段の昇り降りの練習もさせていただきました。2人にはかなり無理な事も言つたかもしれません、お陰で私は退院の日まで楽しくリハビリ生活ができ今思い出しても懐かしくさえ感じます。

5ヶ月間の入院生活も最初の3ヶ月間は身体の痛みや辛さで大変でしたが後半の2ヶ月間は楽しく過ごせる事ができました。これも院長先生初め看護師さん、リハビリセンターの皆さん元気で、明るいそしてやさしい接し方によるものだと思います。本当に感謝しております。

第17回救急症例検討会 地域連携室

3月12日、当院主催の「第17回救急症例検討会」が開催されました。地域の消防署より救急救命士及び救急隊員の方々にご参加いただき、昨年11月から本年1月末日までに当院に救急搬送された3症例について、当院医師と熱心な討議が行われました。この検討会が、地域の消防署と当院双方の理解をより深め、ひいては地域の救急医療の発展・向上に繋がるものと考えております。

検討会に引き続き、当院の山本副院長が「意識障害」について小勉強会を行いました。

また今回は地域連携室から、当院の地域連携並びに救急活動に対する取り組みについて発表を行いました。

今後も当院では、地域における院の地域連携並びに救急活動に対する取り組みについて発表を行いました。

私は平成18年5月2日に退院して日常生活は何とかこなしておりますが、まだ階段の昇り降りや、段差のある所、

